

診断士会

6都県が初の意見交換

地位向上へ連携を強化

東京、福井など6都県のコンクリート診断士会は2月28日、福井県福井市のウェルンティ福井で意見交換会を開催した。複数の診断士会が意見交換の場を持つのは全国初の試み。互いに連携を強化し、診断士の社会的地位向上に向けた活動の一層の充実につなげたい考えだ。

参加したのは石川県（奥田由法会長）、静岡（名倉昭三会長）、島根県（井田豊会長）、東京（小野定会長）、富山県（安川栄志会長）、福井県（石川裕夏会長）の各コンクリート診断士会。それぞれ会長ら1〜5人、計17人が出席した。

冒頭、同会を発案した東京の小野会長は「診断

士のニーズは今後も高ま

つていくと予想される

が、認知度やフォロワーの体制が十分ではない。診断士会をしかるべき地位と力を備えた団体にしていきたいと考える。最初に会を設立した福井県をはじめ、他の会と意見交換することで、今後の新たな展開の手がかりを見出したい」と開催主旨を説明した。

議事では、各会の活動経過や取り組み等の報告に対し質問や意見が相次いだ。その後の共通課題に関する意見交換でも活発な議論が交わされた。主なやりとりは以下の通り。

▽新会員の勧誘
「個人情報保護の観点から新規合格者が公表さ

れず、接触を図る手段がない。関係者の口コミに頼っている状況だ」

「ホームページが有

効。HPを通して賛助会員が加入した例もある」

「プレスリリースを多用し活動を細かく報道してもらっている。有資格者へのアピールに加え、新規取得者の増加にも役立っていると思う」

▽会への診断依頼の対応
「会員を紹介することはあるが、会としては対

応していない」

「会員の受注にいたるまで積極的に対応している」

「受注活動や診断の実施は、任意団体としては責任の限界を超える恐れがある。法的な根拠の明確化が必要だ」

「NPO法人化することなどで、なんらかの社会的役割を果たしていくこ

とも可能ではないか」

▽会員名簿の公開
「個人情報保護法があり、会員の氏名や連絡先を公表できない」

「公開している。確認を取った上でなら、HP上での公開は会員にとって有益」など。

東京診断士会は、3月10日に大分でも意見交換会を開催する。